

山梨大学附属図書館報

やまなし

2021.11.1
vol.19

no. **1**

contents

- 2 | 図書館資料の電子化に思う
- 4 | 図書館利用者の声
- 5 | 学生にすすめる本と読書法
- 6 | 図書館統計
- 7 | 図書館トピックス
 - 新規格ICカードへの対応について
 - 入退館ゲートの新設について [医学分館]
- 8 | 「生と死のコーナー」講演会 [医学分館]
 - 感染症対策中の図書館利用について ほか

図書館資料の電子化に思う

オオスミ キヨハル
附属図書館長 大隅 清陽

今年の4月から附属図書館長となりました大隅清陽です。普段は教育学域の生活社会教育コース・社会科学教育系というところで日本史を担当しています。1997年に本学に赴任して以来、附属図書館にはいつもお世話になってきましたが、これからは館長として、利用者の皆さんと館の運営とをつなぐ立場となりました。館報『やまなし』に掲載された歴代館長の就任あいさつを拝見すると、多くの方が、ご自身のこれまでの図書館との関わりについて述べておられますので、私もその前例に倣いたいと思います。

私は1982年に東京大学教養学部文科Ⅲ類に入学し、1984年に本郷の文学部国史学科に進学して以来、1993年に就職するまでの間、東大の各所に設置された図書館や図書室を利用してきました。大学に限らず、当時の図書館の目録は、蔵書の書誌データが、葉書より一回り小さな厚紙に一点ずつ記入されたカード目録でした。閲覧室には、このカードを、著者名、件名、分類などで順番に納めた小さな引き出しが並んだ木製の棚があり、利用者は、お目当ての図書がありそうな引き出しのカードを順に繰って図書を探します。探しているカードが見つかったら、請求記号などをメモしてから書架やカウンターに行き、現物を手にするわけです。カードの多くは万年筆による手書きで、上記のように同じものが最低でも3枚は必要ですから、職員の方たちの労力もたいへんなものだったことでしょう。

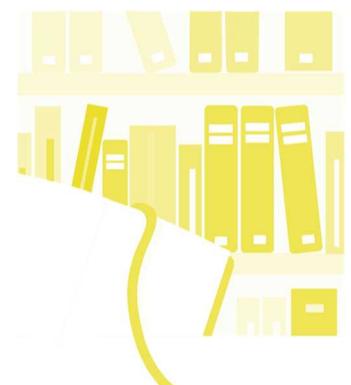
1989年に大学院の博士課程に進学した私は、奨学金で初めてワープロの専用機（富士通のOASYS）を買いましたが、ちょうどその頃、本郷の総合図書館では目録の電算化が進み、館内の専用端末から蔵書が検索できるようになってゆきました。ただ、研究でお世話になることの多い学部の研究室や、学内の研究所などの図書室の目録は相変わらずカードでした。今回、この原稿を書くにあたって、駒場の教養学部のホームページも見てみましたが、駒場の図書館では現在でも、1986年以前に登録された図書にはカード目録しかないようで、ちょうどこの時期が、蔵書目録のオンライン化の始まりであったことが確認できます。

ただ、インターネット環境が今のように整っていなかった当時は、オンラインとは言っても、館内の端末から検索ができるだけで、カード目録と同じように、実際にその図書館に行かなければなりませんでした。各図書館の目録（OPAC）がインターネットで繋がれ、日本中のどこからでも検索が出来るようになったのは、私が梨大に着任してしばらくしてからではないかと思います。2004年には国立情報学研究所（NII）によるCiNii（NII学術情報ナビゲータ）の本格的な運用が始まり、梨大の附属図

書館のホームページからも、国立国会図書館や、山梨県内の大学、公共図書館の蔵書の横断検索が出来るようになりました。地方大学に勤務する者にとって、この変化はまことにありがたいものでした。しかし、現在でもそうですが、必要とする文献の実物をウェブで入手できることは必ずしも多くはなく、附属図書館を通じてコピーや現物の取り寄せをする必要がありました。論文については、主要な学会誌や大学の刊行物の電子化は一部で進んでおり、附属図書館のMyLibraryから文献複写を申し込んだところ、職員の方から、電子版がウェブで公開済みであることを教えていただくことも増えてきました。ただ、私の専門の日本史の場合は、特定の大学に属していない小さな学会や、既に解散して存在しない発行元も多く、必ずしも重要なものから電子化が進んでいる訳ではありません。例えば、東大に事務局がある史学会という学会は、日本で一番古い歴史学の学会ですが、会誌である『史学雑誌』に掲載された論文のPDFがJ-STAGEから入手できるのは、1976年に刊行された第85編以降に限られます。このように、図書に比べて賞味期限の短い学術論文のうち、比較的最近に刊行されたものは電子化していることもありますが、もう少し息の長い学術書となると、電子書籍化はほとんど行われておらず、紙の本を利用せざるを得ない状況が続いています。

理系のうち、特に最先端のテーマでしのぎを削っている分野の場合、研究成果も鮮度が命で、電子ジャーナルで最新の情報を入手するのが研究を進めるうえでも必須かと思いますが、個々の論文の学術的な意義はそれだけでは判断できず、その学問の体系の中に位置づけて初めて評価できるものでしょう。学問の成果の容れ物としての書物の重みや位置づけは分野によって異なるでしょうが、例えば生物学の場合には、『キャンベル生物学』や『THE CELL』といった定番の教科書が版を重ねていて、初学者はそれを熟読することから始めることは私でも知っています。

デジタルネイティブ世代である学生の皆さんにとっては、身の回りの情報はデジタル化されていて当然なのだろうと思いますが、そうなったのは、前世紀末からの20年余りの間のことにすぎません。有史以来の人類は、自ら言語を連ねることで思考し、それを書物という形にまとめあげることによって、知の体系を形作り、後世に伝えてきました。そして図書館とは、こうした書物を組織的・体系的に蓄積することによって、新たな知を創造してゆくための場を提供するものです。今日、書物の形態は紙だけでなく、電子媒体やデータベースの形をとることもあり、またインターネットやGoogleをはじめとする検索技術によって、複数の場が新たな知のネットワークとしてつながりつつありますが、それでも図書館の本質は変わりません。人類社会の知の豊かな伝統を継承しつつ、新たな知の創造の基盤となるために、大学図書館はどうあるべきか。2年間という短い間ではありますが、館長の在任中、利用者や職員の皆さんと、ともに考えてゆきたいと思っています。



図書館 利用者の 声

本は武田通りを抜けて、 そして電波に乗って

コバヤシ チエ
臨床研究連携推進部 小林 知恵 特任助教

本学医学部キャンパスに着任して約半年。新型コロナウイルス感染症流行に伴う様々な規制に、車なし暑さ耐性なしという個人的な事情も重なり、附属図書館の手厚いサービスに日々助けられています。特に本館・医学分館間の現物貸借サービスは、最短で申込みの翌日に資料を受け取れるスピーディーさも相まって、私にとってインフラといっても過言ではありません。各研究室所蔵の本も取り寄せできる場合があるので、馴染みのない他部局の研究室に詣でる手間を省けるのもありがたい限りです。

近頃は電子ブックも利用するようになりました。本学附属図書館は電子ブックの購入に力を入れていて、専門書から軽い読み物に至るまで日毎新しいタイトルが配架されているのを皆さんご存知でしょうか。図書館ウェブサイトのトップページを回転寿司よろしく右から左へと流れる新着タイトルの表紙を眺めているだけで心躍ります。特に紙の図鑑や事典類は借り出すだけで一苦労でしたが、電子化のおかげで手に取るハードルが随分と下がりました。ついつい楽器の教本やレシピ本など研究に関係のない本にも手が伸びてしまい、MyLibraryページのブックマークリストは長くなる一方です。

読むべき資料だけでなく日々の生活を彩る本に出会い、味わうためのサービスが充実している山梨大学附属図書館。夜間開館や文献複写サービスなど語りたいことは尽きませんが、それはまた別の機会に。これからもお世話になります。

誰かの息が聞こえる場所

大学院 工学専攻 マルヤマ キララ
修士課程2年 丸山 洸

私の図書館の楽しみ方は、「本棚を眺める」です。図書館の利用法なので、「本を読む」以外のことを紹介するのも恐縮ではありますが、ただ本棚に収まった背表紙を眺めることが、意外と楽しかったりします。一般書架はもちろんですが、特にオススメなのは、新着書架をざっとチェックすることです。

自分以外の方がどんな研究をしているのか、同じ大学内でも、お互いに知る機会はなかなかないものです。そんな中、新着書架を見てみると、同じようなテーマの本が同時に複数冊あることがあります。マンホールの蓋の話、CADの専門書、等…。ああ、誰かが講義や研究で必要だったのだろうか、と、本の背表紙だけからも推察できます。まあ、すべて想像にすぎないのですが、同じ大学内の違う方々が息づいている気配を感じられると、自分は一人ではないのだと励まされます。

調べ学習や自主学習に利用することはもちろん、研究や勉強で行き詰ったときにこそ、リフレッシュのために図書館に行ってみてください。同じ大学内の誰かの興味関心を垣間見ると、モチベーション向上にもつながると思います。

よろしければ、ご自分の研究や興味に関する図書は積極的にリクエストしてみてください。どんな勉強をしているのか、リクエスト本を通じて教えてください。今日も新着書架を見に行くのが楽しみです。

最後に、いつも温かく利用しやすい環境を整えてくださる図書館職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

学生にすすめる本と読書法

● 本 館 2F 新着書架 361..45

対話型ファシリテーションの手ほどき

中田 豊一 著
認定NPO法人 ムラのミライ



生命環境学部 環境科学科
(国際流域環境研究センター)
イシダイラ ヒロシ
石平 博 教授

この本は、大学院の授業「国際協力論」の講師の先生から紹介された参考書をネット上で探していた中で偶然見つけたものです。タイトルにある「対話型ファシリテーション」とはどのようなものなのかに興味を持ち、本を購入して読んでみました。わずか120ページ足らずの分量の本ですが、非常に中身が濃く、読み物としても大変面白いものでした。

この本で紹介されている対話型ファシリテーションの基本は、簡単な事実確認の質問を使った対話術です。相手に質問をする場合、英語の5W1Hを聞いていくのが一般的なやり方ですが、「なぜ(Why)」や「どう(How)」のような問いかけを、具体的な事項を確認する質問に置き換えるという非常にシンプルな技術がこの手法の中心となっています。物事に対する疑問(なぜ)や現象の背景に

ある構造への興味(どのように)は、研究の出発点や原動力ですが、これらの問を使わないコミュニケーション手法があることに最初は少し驚きを感じました。しかし、本を読み進めていくうちに、国際協力の現場での経験を通じて著者が培ってきた対話の技法が方法論として体系化されており、その有効性が様々な現場で実証されていることを理解することができました。

この対話術は、仕事だけでなく、家族や友人とのコミュニケーションの質を向上させるためにも使えるものです。これから様々な人と関わる機会を持つ学生さんに、是非一読いただきたい本としてお薦めしたいと思います。



図書館の所蔵情報へ

私が薦める読書法

医学部 眼科学講座
カシワギ ケンジ
柏木 賢治 教授

秋の夜長、読書には最適の時節が到来した。さらにコロナ禍で自宅にいる時間が長くなり、TVやスマホだけを見ていて、読書をしないとなんだか罪深ささえも感じてしまう。

インターネットが情報母体として主流の今日、自身に都合のよい情報の取得に偏重する傾向が強くなっている。物事には必ず多面的側面があり、一面のみの理解では正しい判断が出来ない。このためにも嗜好に囚われない広い知識を持つことが重要であり、これをもたらしてくれるものの1つが良本である。しかし、読書時間は、平均1日30分程度との調べもある。毎年約7万冊の新刊が発行され、新刊以外に古典や名作も山ほど存在する。これではいくら時間があっても、人工知能が内蔵されているわけでもない人間が読めるわけがない。

ではどうやって選べばよいのだろうか？ 尊敬する人の推薦する図書を読んでみるのもよいが、まずは、名の通った文学賞の受賞作から読んでみることを薦める。最近多くなった読書コンシェルジュを活用するのもよいと思う。読書自体があまり好きでない方は、聴く読書(オーディオブック)を活用するといった方法もある。要は、良書に浸ることが重要である。これによって、自身の知的好奇心が刺激され、広く、より深い知識を得る面白さが実感できるのではないだろうか。読書とは本来楽しいものであるが、実際には読書をする余裕もないという方々が多い。方法は様々あるので、まずは本に触れることから始めてみることをお薦めする。



1 図書館利用統計

(1) 開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数(人)		
		学内者	学外者	合計
本館	250日	41,032	19	41,051
分館	285日	77,016	3	77,019



(2) 館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査 件数
	学生	教職員	学外者	合計	
本館	15,044	3,248	0	18,292	1,876
分館	9,391	3,092	12	12,495	1,988

(3) 相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	90	154	579	809
分館	52	86	1,458	1,352
合計	142	240	2,037	2,161

(4) 子ども図書室

開館日数	32日
入室者数	148人
貸出券発行人数	12人
蔵書冊数	4,795冊
貸出冊数	264冊

2 図書館蔵書統計

(1) 図書・雑誌蔵書数 (R3. 3. 31現在)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	341,544	123,926	465,470	7,557	2,503	10,060
分館	57,090	41,734	98,824	1,983	1,335	3,318
合計	398,634	165,660	564,294	9,540	3,838	13,378

(2) 図書・雑誌受入数 (R2年度)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	1,930	35	1,965	581	43	624
分館	1,356	8	1,364	393	25	418
合計	3,286	43	3,329	974	68	1,042

新規格ICカードへの対応について

9月から学生証・教職員身分証明書の新規格ICカードへの更新が始まり、附属図書館では、本館・医学分館の自動貸出機、本館の入館ゲートを改修して対応しました。

【カードの対応状況】

身分	カード規格	本館	医学分館
学生	新	○	○
	旧	×	×
教職員	新	○	○
	旧	×	○

- ・本館を利用する教職員は、人事課に新カードの発行を申請してください。
- ・対応しないカードをお持ちの方は、カウンターで貸出手続きをしてください。
- ・山梨県立大学との来館相互利用の利便性向上のため、バーコードカードへの対応も実施しました。



バーコードカードを
読むこともできます。



『医学分館：入退館ゲート新設』

旧ゲートにおいては、バーを押しての入退館でしたが、新ゲートでは、入館時は身分証認証での入館、退館時は人感センサーにより自動でゲートが開き、退館となります。

これにより、不必要な機器類への接触がなくなり、昨今の感染症リスクを低減するとともに、部外者・不審者の侵入に対するセキュリティ面も向上しました。

未貸出の図書の持出については、以前同様に検知・ブロックシステムが稼働しますので、変らずお気をつけください。





山梨大学附属図書館医学分館

「生と死のコーナー」関連行事 講演会

附属図書館医学分館では、“生と死”に関する資料を集めた「生と死のコーナー」を設けています。これは医療従事者をめざす学生にとって“生と死”について考えるきっかけとなるよう設置されたもので、現在では約2,800点の資料（図書、雑誌、ビデオ）を所蔵しています。このコーナーの関連イベントとして、下記のとおり講演会を開催いたします。医療関係者の方、一般の方問わず、関心のある方は是非、ご参加ください。



講演会

演題：「自分の父母の介護と看取り」

フルヤ サトシ

講師：古屋 聡氏（山梨市立牧丘病院 医師）

日時：令和3年12月3日（金）18：00～19：30 入場無料

場所：山梨大学 医学部キャンパス（中央市） 臨床講義棟臨床大講堂

※オンライン配信もあり（詳細は図書館HP参照）

学外の方はオンライン配信のみ

（講師紹介）

古屋医師は、山梨市立牧丘病院を拠点として、地域と多職種間の連携の中で在宅医療に取り組みながら、口腔ケアや食支援の啓発活動を積極的に行っている。また、その経験を活かし、東日本大震災後には、現地での支援活動に取り組んでいる。

昨年11月、日本テレビ系ドキュメンタリー番組『NNNドキュメント’20』で放映された「家族の役割～最期の過ごし方～」では、自らが関わった父母の介護と看取りが描かれ話題を呼んだ。

感染症対策中の図書館利用について



館内各所に消毒用アルコールとペーパータオルを設置しています。使用する机やYINS端末のキーボード等の接触箇所を各自消毒してご利用ください。

また換気のため窓を開けておりますので、防寒対策も合わせてお願いします。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、通常山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できますが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学外者の方の利用をご遠慮いただいています。

最新の情報については、

<https://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。

本館 Tel:055-220-8066, 医学分館 Tel:055-273-9357

にお問い合わせください。



● 表紙：甲斐駒ヶ岳を望む
場所：甲府キャンパス（図書館職員 撮影）

山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第19巻第1号

2021年11月1日 発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063